

地域資源を活かしたまちあるき活動の実態に関する研究

- 全国のまちあるき主催団体と別府八湯ウォークを対象として -

指原 元樹

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

近年、我が国では、観光立国推進基本法(2006)において「地域の住民が誇りと愛着を持ち、創意工夫を活かした主体的な取り組みの促進」を謳うなど、「観光」というテーマを通じて、住民を地域の活性化に貢献する主体として期待する動きが見られる。その中で地域や住民による取り組みとして「まちあるき」が全国的に取り入れられている。この活動は観光振興のみならず、まちの文化や歴史を再認識する契機となり、まちづくりに住民参加を促す有効な手段となり得る。

そこで本研究は、全国のまちあるき活動の運営やコース内容等の実態を把握し傾向を明らかにするとともに、まちあるき活動の効果や活動の拡がりを検証することで今後の展望と課題を示すことを目的とする。

1-2. 既往研究と位置付け

まちあるきに関する研究として、事例分析によりまちあるき活動実現までのプロセスを整理し特徴と課題を解明した鈴木ら¹⁾の研究がある。また田中²⁾松岡ら³⁾は参加者の特徴や意識について、三津田ら⁴⁾はまちあるきルートについて分析し有益な知見を得ている。しかし、全国のまちあるき活動を対象としたものは見られないことから、本研究は全国のまちあるき活動の運営実態の解明を目指すものである。

2. 研究の対象と方法

2-1. 研究対象

インターネットを活用したキーワード検索および文献⁵⁾により収集した約400件のまちあるき主体の中で、①自治体の関与②主体者としての地域住民の参加③案内ガイドとコースの設定があることを条件とし、まちあるきを主催する130団体を抽出した。

2-2. 研究方法

研究の方法と調査内容は以下の通りである(表1)。

(1) 対象とした全国の130団体に対しメールによりアンケート調査への協力と資料提供を依頼し、得られた回答と情報をもとに運営実態について分析する。

(2) まちあるきを契機とする派生活動について把握するため、(1)によるアンケート調査と代表事例の主催者への現地ヒアリング調査を実施する。

(3) 観光客及びまちあるき参加者に対し、アンケート調査と聞き取り調査を実施し、まちあるきに対する認知度や効果について分析を行う。

3. 全国のまちあるき活動の運営実態

130団体に対して実施したアンケート調査により得られた有効回答(48団体)について分析した。

3-1. 創設時期について

わが国の観光に関する政策動向とまちあるき主催団体の創設数との関係を見ると、1990年代から徐々に各地域で創設され始めていることがわかる(表2)⁶⁾。この間、観光ルネサンス事業が創設(2005)し、観光まちづくりのための補助金政策が実施され、観光立国推進基本法(2006)、観光庁設置(2008)など、政策的にも充実が図られたことが要因であると考えられる。

次節以降、創設時期と運営形態を要素別に分けて比較し、関係性や傾向を分析する(表3)。

3-2. 創設目的について

創設目的は、地域活性化(a:36団体)が最も多く、次いで案内ガイド育成(b:21団体)が続いていることから、観光振興だけでなく、地域の人材の育成にもまちあるき活動が用いられていることがわかる。また、歴史文化の継承(e:15団体)より観光振興に加え地域資源に対する保存意識が確認出来る。

3-3. 構成人数及び役割について

構成人数では、2010年までに創設した団体は、30人以上の構成が多く、ここ5年間では30人未満の規

表1 アンケート・ヒアリング調査概要と回収結果

依頼先	(1)全国まちあるき主催団体	(2)別府八湯ウォーク関係団体	(3)参加者/観光客	
質問内容	・創設理由 ・運営資金 ・宣伝方法	・組織形態 ・運営手法 ・派生活動	・(1)と同様の質問 ・各団体の関係性について ・今後の課題について	・属性 ・訪問頻度と目的 ・立ち寄り施設 ・印象評価 ・まちあるき知名度
回答状況	【依頼】130団体 【有効回答】48団体	【ヒアリングのみ】3団体 【有効回答】8団体	【参加者】47人 【観光客】158人	

表2 国の政策年代とまちあるき団体の創設数

年代	出来事(年)	創設数
1990年以前		1団体
1990年代	(1995) 「今後の観光政策の基本的方向について」	6団体
2000年代	(2000) 「新ウェルカムプラン21」が策定 (2002) 訪日観光年 (2003) 観光立国行動計画策定	11団体
	(2005) 観光ルネサンス事業創設 (2006) 観光立国推進基本法が成立 まちあるき博覧会「長崎さくら博」 (2007) 観光立国推進基本計画が閣議決定 (2008) 観光庁設置	9団体
2010年代	(2014) 第1回国土交通省観光立国推進本部	19団体

模の割合が高いことより、徐々に組織が拡大していることが考えられる。組織内の役割には代表者、会計、事務、運営、広報、ガイドがあり、創設時期が早い団体は複数の役割に分担されている割合が高い。

3-4. 運営資金について

運営資金は、補助金や助成金 (a:22 団体)、まちあるき参加費 (b:27 団体) が主な財源であり、この両者によるものが 39 団体を占める。また参加費のみで運営する団体 (10 団体) がある一方で、補助金や助成金に限らず事業金 (c) や寄付 (d) などの資金源を確保し参加費を無料とするもの (9 団体) もみられた。

3-5. 宣伝方法について

創設時期や構成人数に関わらず、ウェブページ (a:43 団体)、パンフレット (b:31 団体) がメインの宣伝媒体となっている。また旅行会社 (d:11 団体) と提携し

表 3 創設時期と運営形態の要素別クロス表

創設時期	主催団体	構成人数	創設目的				構成及び役割				運営資金				宣伝方法				派生・関連活動			
			a	b	c	d	a	b	c	d	e	f	g	h	a	b	c	d	e	f	g	h
1954	西宮観光協会	C																				
1994	まちづくり小浜おほま観光局 若狭の語り部	D																				
	丹波市観光協会	B																				
1995	宇部市ふるさと コンパニオンの会	D																				
	高岡市観光協会	G																				
1998	大分市商工農政観光課	C																				
	別府八湯竹瓦倶楽部	G																				
2000	米子市観光協会	B																				
	松戸シティガイド	F																				
2001	鉄輪湯けむり倶楽部	E																				
	黒部ガイド事務局 黒部市商工観光課	D																				
2002	網布市観光協会	D																				
	別府八湯語り部の会 ボランティアガイド部会	B																				
2003	別府八湯浜臨倶楽部	A																				
	生野町並み案内人 別府八湯湯田温泉郷倶楽部	B																				
2005	とくしま観光 ガイドボランティア会	G																				
	伊根浦散策案内人	A																				
2006	熱海まち歩きガイドの会	D																				
	佐伯市観光協会 甲南ボランティアガイド	C																				
2007	対馬観光ガイドの会やんこも	B																				
	新潟シティガイド あさみ地域振興会	G																				
2008	道の駅にしいや 津粋・ひろさき街歩き 観光推進実行委員会	A																				
	信州しいや観光局 小布施文化観光協会	E																				
2009	野津原ボランティア ガイド協議会	D																				
	青森観光コンベンション協会 松山はいく事務局	C																				
2010	とさくるく。 松江観光協会	A																				
	としま案内人雑司ヶ谷 まいづる広域観光公社	D																				
2011	地元から発信する 旅づくり実行委員会	B																				
	福岡市観光コンベンション協会 ふるさと案内人の会	D																				
2012	広島市経済観光局観光政策部	E																				
	西瀬区北国街道 まち歩きガイドの会	C																				
2013	日光インタープリター倶楽部 筑後市観光協会	B																				
	BEPPU PROJECT	C																				
2014	ツルズル西宮楽らく探検隊	C																				
	津久見観光ボランティアの会 南区広域ボランティアガイド(仮)	A																				

(構成人数) □A:1-9人 B:10-19人 □C:20-29人 D:30-39人 ■E:40-49人 F:50-59人 ■G:60-6人
 (創設目的) a:地域活性化 b:ガイド育成 c:住民意識 d:交流 e:歴史文化継承
 (組織構成) a:代表者 b:会計 c:事務 d:運営 e:広報 f:ガイドのみ
 (運営資金) a:補助金や助成金 b:まちあるき参加費 c:事業費 d:寄付 e:その他
 (宣伝方法) a:ウェブページ b:パンフレット c:チラシ d:旅行会社 e:その他
 (派生活動) a:地域活動 b:教育活動 c:社会活動 d:広報活動 e:その他のイベント f:無し

た、ツアープログラムなどの手法も見られる。さらに、その他では SNS や市報などが挙げられており、様々な媒体を通じた宣伝手法が用いられている。

3-6. 派生活動及び関連活動について

29 団体が、まちあるき以外の活動を行っており、清掃活動や勉強会などの地域活動 (a:18 団体)、学校への教育活動 (b:6 団体) から地域との密接な関係性をみてとれた。また講演会や歴史的町並み・建物を保存する社会活動 (c:12 団体) もあることから、まちあるき活動のみに止まらず、社会やまちづくりに貢献するための活動が主体的に行われ、まちあるき活動を通じた他の活動への拡がり確認出来た。

4. 代表事例分析

全国のまちあるき主催団体の中で、複数団体が連携した特徴的な活動が見られる「別府八湯ウォーク」を対象に組織及び活動の特徴、課題について考察する。

4-1. 別府市と別府八湯ウォークの歴史

別府市は観光事業を活性化させる政策として、「ONSEN ツーリズム事業」² を掲げ^{7,8)}、事業支援や人材育成を行った (表 4)。この頃に、「別府八湯竹瓦倶楽部」⁹⁾ が結成 (1998) され、地域住民がまちを学ぶための活動として別府八湯ウォークの元祖となる竹瓦界隈路地裏散歩を創り上げた。創設者³⁾ によるガイド育成のもと他地域への拡大が進んだことで、別府八湯ウォークとして組織化されていった¹⁰⁾。

表 4 別府市と別府八湯ウォークの動き

年	別府市の動き・その他の活動	別府市のまちあるき
1996年	「別府八湯勝手に独立宣言」	
1997年	別府八湯メーリングリストの創設	
1998年		別府八湯竹瓦倶楽部結成
1999年	別府市総合計画「アジアの未来を拓く湯けむりのまち」	竹瓦界隈路地裏散歩の創設
2000年	別府八湯路地裏文化祭開催 竹瓦デザイン会議	
2001年	別府八湯温泉道の実態 別府八湯温泉治癒会(ハットウオンバク)開催 オンバクが「厚生労働大臣賞受賞」	鉄輪湯けむり・ゆづくれ散歩
2002年	別府八湯竹瓦倶楽部が 地域再生づくり総務大臣表彰式「地域づくり団体賞」受賞	
2003年	まちづくり推進室設置 泉都別府まちづくり支援事業→別府八湯ウォーク 別府市観光戦略会議設置 泉都まちづくりネットワーク 準備開始	竹瓦かいわい路地裏散歩 浜臨温泉せせあ色散歩 堀田湯の里・湯けむり散策 人情の町亀川湯遊散策 竹瓦ゆづくれ散策
2004年	第1回泉都まちづくりネットワーク交流会 国より地域再生計画ONSENツーリズムの認定	
2005年	全国都市再生モデル調査採択(別府八湯竹瓦倶楽部) 別府八湯温泉博覧会(オンバク)補助調査事業 景観形成団体に認定 ONSENツーリズム局の設置 まちづくり交付金事業開始	別府駅周辺地区 鉄輪温泉地区 都市再生整備事業開始
2006年	国より地域再生計画認定 地域通貨モデル事業開始 地域再生イベント「世界ツーリズム交流フェスタ」開催 観光ルネサンス事業採択 JR別府駅リニューアルオープン	
2007年	国交省実証実験「まちめぐりナビ」プロジェクトスタート 「ONSENツーリズム交流フェスタ」開催 ONSENツーリズム研究会発足	
2008年	別府温泉ツーリズム推進プロジェクト開始 (まちづくり支援、人材育成、油屋熊八市民学校事業など)	
2009年	別府八湯ウォーク結成	
2010年	別府市景観計画策定 別府八湯ウォーク連絡協議会「国土交通大臣賞」受賞	朝見郷ロマン散策
2011年	地蔵蒸し工房開設	
2012年	「別府の湯けむり・温泉地景観」が重要文化的景観に選定	
2014年		別府アートウォーク
2015年	別府市協働のまちづくり事業補助金へ改定	

別府八湯竹瓦倶楽部主催 (実線) 別府八湯竹瓦倶楽部共催 (点線)

4-2. 別府八湯ウォークのネットワーク

まちあるき主催団体が所属する別府八湯ウォークは、創設者・別府市観光協会・別府市役所の3者による共同代表としている(図1)。組織化したことで全体での保険加入やウェブページ・パンフレットへの掲載などのメリットが生まれた。各々の独立した活動の中で、定期的に連絡協議会での交流会も行われる¹¹⁾。また新たに結成された泉都まちづくりネットワーク^{*4}により、更なるネットワークの拡がりが見られている。

4-3. 別府八湯ウォークの派生活動について

派生活動(図1)をみると、6団体がまちあるき以外の活動を実施・予定中にあり、建物の保存活動や整備事業など直接的なまちづくりへの参加もみられる。実際に竹瓦温泉や浜田温泉は、地域住民への呼びかけ運動により現在でも保存活用されている。このことからまちあるき活動は、住民がまちの歴史や文化を学び、見つめ直す中で、主体的にまちづくりに参加していく手段としても有効だと言える。

4-4. 今後の課題と対策

活動においては各構成員の活動時間のばらつきや異なる時間数に起因する人手・後継者不足が共通の課題とされている。また、活動を更に広めるための効果的な宣伝手法が挙げられている。このことから今後は、参画する団体間の相互協力が重要であると思われる。

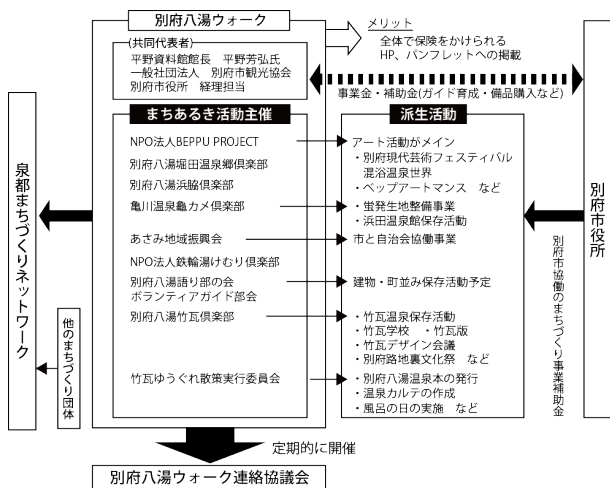


図1 ネットワークと派生活動模式図

表5 テーマと経路タイプごとの平均値まとめ

テーマ	経路タイプ	料金平均値(円)	時間平均値(時間)	1コース内における施設分類ごとの立ち寄り数の平均値(箇所)										
				商店・飲食店	神社・寺	城・史跡	建造物	自然・地形	博物館・資料館	観光スポット	温泉施設	その他	合計	
歴史文化(108)	A→A(18)	639	3.0	0.3	3.5	0.4	0.8	1.5	0.2	0.1	0.1	0.4	7.2	
	A→B(20)	758	2.2	0.5	1.8	0.8	1.3	1.1	0.3	0.1	0.6	6.9		
	B→B(27)	942	2.1	0.6	0.8	0.5	2.3	1.1	0.8	0.8	0.2	6.8		
	B→C(27)	1260	2.2	0.6	2.2	0.4	1.7	1.1	0.6	0.2	0.4	7.3		
散策(55)	A→A(9)	333	2.6	0.2	2.6	0.4	0.6	2.3	0.0	0.3	0.2	0.9	7.3	
	A→B(8)	1137	2.1	0.4	1.3	0.1	1.0	0.9	0.1	0.1	0.7	6.4		
	B→B(5)	1700	1.6	1.0	0.5	0.0	0.8	2.0	0.5	1.0	0.3	5.5		
	B→C(21)	618	1.9	1.2	0.2	0.1	2.7	1.6	1.2	1.5	0.1	9.0		
体験(31)	A→A(5)	2500	1.7	2.0	0.2	0.0	0.6	0.6	0.2	0.8	1.4	6.4		
	A→B(3)	2750	1.3	2.7	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	1.0	6.7		
	B→B(5)	3776	1.8	1.4	0.0	0.0	0.0	1.6	0.6	0.0	0.0	4.6		
	B→C(12)	3525	2.3	2.5	1.2	0.1	2.0	0.6	0.4	0.1	0.0	7.4		
歴史文化(108)	総合平均値	818	2.0	0.5	1.9	0.5	1.6	1.2	0.5	0.1	0.3	6.9		
散策(55)	総合平均値	709	1.8	0.8	0.9	0.1	1.6	1.5	0.6	1.0	0.2	7.3		
体験(31)	総合平均値	3087	1.9	2.2	0.6	0.0	1.1	0.8	0.4	0.3	0.4	6.6		

5. 全国のまちあるきコースの特徴

全国のまちあるき主催団体によるまちあるきコース(193事例)をもとに、テーマ、経路、地域資源の活用傾向について分析した。

5-1. テーマの分類と傾向

ウェブページに記載されるコース名称と概要から、テーマを「歴史文化」「散策」「体験」型の3種類に分類した。歴史文化や散策型は参加費が1000円未満の割合が半分以上で、無料のコースもあるのに対して、体験型は飲食や入浴、製作といった実費が必要となるため2000円以上に設定される傾向にある。

立ち寄り施設数をみると、散策型は1つの施設への立ち寄り時間が短いため10箇所以上回るコースが25%と特に高く、体験型は1つの施設に滞在する時間が長くなるため、5箇所までの割合が比較的高い。

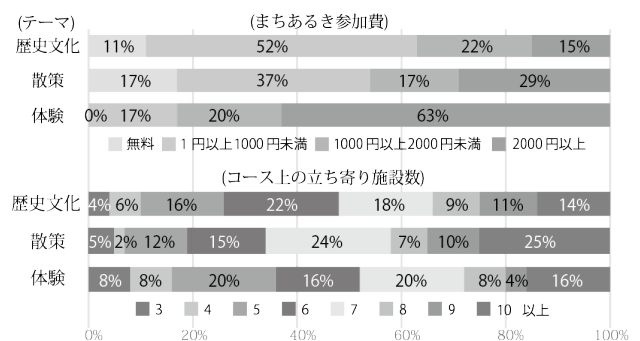


図2 テーマ別の参加費と立ち寄り施設数

5-2. 経路タイプとコース内容

始点と終点によって経路タイプを分類し(図3)、各テーマごとの内容に関する集計を行った(表5)。実施時間は約2時間が平均であるが、内容は歴史文化型では、神社・寺、建造物、自然・地形への偏りがあり、散策型ではそれに加えて商店・飲食店や観光スポットを取り入れるなど比重に違いがある。一方で、体験型は特に商店・飲食店に集中しており、参加者は経路タイプの利便性や参加費、目的によってコースを選ぶことも可能である。

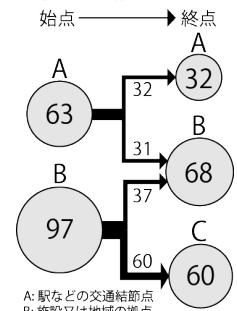


図3 各経路タイプ数

6. 観光客とまちあるき参加者へのアンケート調査

別府八湯ウォーク主催団体に協力を依頼し、定期的
に開催される2コースにおいて12/12-1/10の期間
における参加者へのアンケート調査を行った。

6-1. 参加者属性とまちあるき知名度について

観光客(158人)で、別府市のまちあるき活動を知
る人は29人、参加者は6人に止まったことから、知
名度の低さが伺える(図4)。参加者(47人)は、50
歳以上が63%と比較的年齢層が高く、複数回訪れて
いる人が57%いることから(図5)、リピーター
の楽しみ方の1つとなっている。きっかけとしては、
ウェブページをみて参加した人が53%いる一方で、パンフレ
ットが17%と主とする宣伝方法にも関わらず効果が薄い。

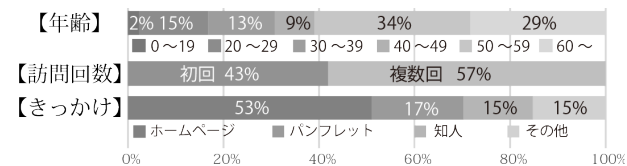
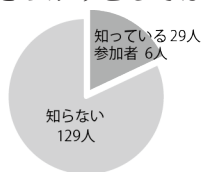


図4 まちあるき知名度

6-2. まちあるきコースについて

全国平均と比較すると、両者とも参加費は歴史文化
型の平均である818円以下の一方で、立ち寄り施設
数は平均の6.9箇所以上である(表6)。同じ地域内
であるが始点は異なり、終点はコース名称にもある竹
瓦温泉に据えている。商店・飲食店、温泉施設への立
ち寄りも多いことから、比較的安価で、地域の特殊性
を織り込んだ多様性のある内容であると言える(図6)。

表6 2コースのコース特性

まちあるきコース名称	テーマ	始点	終点	料金	全国		
① 竹瓦かいわい路地裏散歩	歴史文化	A	B	700	818円		
② 竹瓦ゆづくれ散策	歴史文化	B	C	500			
立ち寄り施設	①	②	全国	立ち寄り施設	①	②	全国
商店飲食店	4	2	0.49	博物館・資料館	0	0	0.47
神社・寺	1	2	1.90	観光スポット	0	1	0.11
城・史跡	2	0	0.49	温泉施設	6	3	0.25
建造物	5	2	1.58	その他	1	0	0.41
自然・地形	0	1	1.15	合計	21	11	6.9

6-3. コースの印象と満足度について

コース内の施設で印象に残ったものは(図7)、実際
に内部の見学が出来た3・6・12や、ガイドが話す地
域のストーリー性が高い2・13・26、また別府市な
らではの温泉で歴史もある2・19に多く票が入って
いた。ここで時間やガイドの説明に関する満足度をみ
てみると、両者とも満点に近い一方で、コースの充実
度は低い値となっている。以上より、参加した場合の
満足度は高いが、ガイドの説明や内部見学の有無でま
ちに対する印象や満足度も変わると考えられる。



図6 まちあるきルートマップと立ち寄り施設

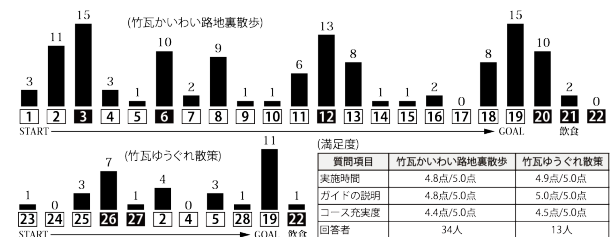


図7 コース別の印象的な建物・施設と満足度評価

7. 考察

本研究では、全国のまちあるき活動主催団体への運
営に関するアンケート調査により、創設時期とともに、
創設目的、構成及び役割、運営資金、宣伝方法、派生
及び関連活動を分析したことで、運営手法における傾
向が明らかとなった。また別府八湯ウォークの事例を
通して、まちあるき活動が地域住民の交流やまちづく
り活動を生むきっかけとなることがわかった。

まちあるきコースに関しては、歴史文化・散策・体
験型のテーマで地域資源活用の傾向や時間の比重が変
わり、参加者の満足度は高い一方で、ガイドの説明や
内部見学により印象に変化があると判明した。

今後の展望としては、地域住民がまちあるき活動を
自主的に始めやすい環境整備とその後の活動における
効果的な宣伝手法、人員確保が必要とされる。

補注

- *1 別府市で行われている複数のまちあるき活動の総称
- *2 市民主体の観光まちづくり事業への支援メニューの1つ
- *3 平野芳弘氏：別府八湯竹瓦倶楽部の立ち上げメンバーで、別府温泉宣伝協会会長などを務めている。現在は平野資料館館長として別府市の資料を無料展覧している。
- *4 別府市のまちづくりグループの情報共有の場として2003年から開始
HP <http://www.city.beppu.oita.jp/machizkr/index.html>
- *5 当日の状況により随時変更があるため、パンフレットをベースに作成。

参考文献

- 1) 2012年9月日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)「まちあるきイベントにおける住民参加の特徴と課題の研究」鈴木啓太、長谷川、鈴木
- 2) 2014年9月日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)「市民主体のまちあるきイベントに関する研究(その1)-名古屋市長、久屋地区で実施されているSOCIAL TOWER TOURを事例とする-」田中恵、深町、伊藤
- 3) 2014年9月日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)「市民主体のまちあるきイベントに関する研究(その2)-名古屋市長、久屋地区で実施されているSOCIAL TOWER TOURを事例とする-」松岡弘樹、田中、伊藤
- 4) 2011年2月日本建築学会東海支部研究発表会「まちあるきルートに関する特徴-尾張地区の事例を通して-」三津田由衣、長谷川、鈴木
- 5) 東京都市長会「多摩地域におけるまち歩きの手引き」
- 6) 国土交通省観光庁ホームページ <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
- 7) ONSEN ツーリズム研究会「ONSEN ツーリズムに関する提言書」
- 8) 事例番号142「ONSEN ツーリズムでまちの内外交流促進」
- 9) 別府八湯竹瓦倶楽部 HP <http://www.coara.or.jp/~sanken/takagawara/>
- 10) 別府温泉における新しい観光の動向-別府八湯竹瓦倶楽部の活動を中心として-
- 11) 財団法人明日の日本を創る協会「大分県別府市八湯ウォーク連絡協議会」